第２回海外留学報告

2024 年 7 月 18 日

スタンフォード大学　生物学専攻　博士課程

島澤　理

博士課程に入ってからそろそろ１年になります。この間の研究、生活を振り返りたいと思います。

秋、冬、春学期にわたり３つの研究室をローテーションしていました。最終的に、生物工学学科の Bintu 研究室に所属することにしました。現在は２年次の秋（11 月ごろ）に行われる進級試験（qualifying exam、qual と略される）に向けて、文献を読んで遺伝子発現の分野の中でどのような問いを立てて、それにどのような手法で取り組むべきかを考えています。

どの研究室に所属するかを決めるにあたっては、どのような分野の研究をしているか、研究室主宰者（PI）はどのような方針であるか、ほかに大学院生、ポスドクはどのくらい所属しているかを考えました。人によっては、２つの研究室に所属した形をとる場合もあります（co-advised と呼ばれる）。

写真１：所属する研究室のある Shriram Center。生物工学のみならず、化学工学の研究室も入っている。

研究室外の、大学としての研究のサポートとしては、共通機器/施設などのほかに、試薬が期限までに配達されずに実験に使用するのに間に合わないといった場合に融通してもらえないか頼むことができるメーリングリストがあり、とても役立ちます。道具、試薬以外にも、例えば新しい実験を試すときに、その実験の経験がある人に連絡を取るこ

ともできます。

研究に直接関係すること以外でも、いろいろと人に連絡をとりやすい環境であると感じています。例えば、私がティーチングアシスタント（TA）として担当した授業について、次の学期にその TA に応募するか迷っている人から連絡をもらったり、逆に私がどの研究室でローテーションをするのが良いか相談に乗ってもらったりしたこともあります。

研究室での生活が始まると、どうしてもその分野内の人と話す機会が多く、他の分野の人と交流する機会が少なくなりますが、専攻/学科内でのセミナーも活発に開かれています。例えば、生物学専攻では、大学院生が主催しているセミナーだけでも 2 つ存在しています。外部の大学の先生のセミナーであったり、同じ建物内の交流などもあります。ほかには専攻の同学年（30 人弱）の間で交流を深めるために、バーベキューをおこないました。なかには、モントレーという場所にある海辺のキャンパス（メインのキャンパスから車で 2 時間くらいかかる）の研究室に所属した人もいるので、海の生物（ヒトデなど）の研究や、そこでの生活の話も聞くことができとても興味深かったです。

写真 2 : Shriram Center からの眺め。右にフーバータワーが見える。

今後の直近の予定は、9 月に生物学専攻のリトリートがサンタクルーズ（キャンパスから 1 時間くらいの場所）に参加します。授業については必修の授業は取り終えたのであとは興味のある授業をとっていくことになります。TA は 2 年生の間のいずれかの学期にあと一回行います。これからは所属した研究室での研究や qual への準備を主にすることになりますが、これらの体験についても今度の機会に詳しく書きたいと思います。